

# 意見交換会で寄せられた 当事者の方の声

1

意見交換会（6月開催）で寄せられた当事者の方の声

## どんなことに困っていますか？

入院するとき，一緒に住んでいるパートナーを緊急連絡先の1番にすることができなかった。

2

自分のことをだれよりも分かってくれているのに。

## どんなことに困っていますか？

同性パートナーで部屋を探す際、不動産屋では  
どういう関係ですかと聞かれる。

3

最初から理解してもらえた  
経験はない。

## どんなことに困っていますか？

家族の理解がなく、  
家族関係が悪化した。

4

## どんなことに困っていますか？

自分のことを  
家族にも友達にも話せない。

5

## どんなことに困っていますか？

本人確認書類の性別と  
見た目の性別が異なり、  
本人ではないと判断された。

6

## どんなことに困っていますか？

例えば、プールの更衣室など、男性用も女性用も使いにくい。

7

## どんなことに困っていますか？

戸籍は女性だが、物心ついた時から男性だと感じていた。

8

思春期になれば男の体になると思っていた。

## どんなことに困っていますか？

学生時代、男女別に分けられる保健体育の授業や制服も嫌だった。

9 学校に相談できる場所や啓発ポスターを1枚でいいので掲示してくれればと思う。

## どんなことに困っていますか？

我慢することに慣れてしまっていて、何がつらいかと聞かれてもすぐには答えられない。

## パートナーシップ制度に望むことは

制度ができることで  
LGBTQへの理解が  
広まっていく。

11

当事者の子どもたちにとっても  
生きづらさが緩和される。

## パートナーシップ制度に望むことは

同性パートナーへの理解が  
広がり、

引っ越しや医療現場での手続きの  
難しさが緩和されること

12

## パートナーシップ制度に望むことは

函館に、この制度があるという  
ことの価値や重要性がある。

13

当事者にとって  
前向きな気持ちになれるもの。

## パートナーシップ制度に望むことは

自分の周りには、当事者は  
いないと思っている人がいる。

14

今まで性的少数者の存在を知ら  
なかった人たちに、当事者が  
身近にいることを知ってもら  
うきっかけになる。

## パートナーシップ制度に望むことは

制度ができることで  
一人で孤独を抱えている  
当事者に、函館にも仲間が  
いると知ってもらいたい。

15

## パートナーシップ制度に望むことは

家族にカミングアウトする  
きっかけになる。

16



## パートナーシップ制度に望むことは

制度があることで、行政が存在を認めてくれているという安心感がある。

17

## パートナーシップ制度に望むことは

例えば部屋を借りるとき、「パートナーです」といって、「そうですか」とすぐに理解されるようになればいいと思う。

18

## パートナーシップ制度に望むことは

同性同士では、法律的に結婚ができない。一緒にいられるという保証がなく、不安がある。

19

制度ができれば、楽しい未来を夢見ることができるようになる。

## 函館がどんなまちになってほしいと思いますか。

パートナーシップ制度で優しいまちになってくれたらいいなと思っている。

20

函館がどんなまちになってほしいと思いますか。

自分が長年苦しんできた分、  
性別違和を感じる子どもたちに  
寄り添う社会になってほしい。

21

函館がどんなまちになってほしいと思いますか。

みんな違って当たり前、  
子どもたちが堂々と  
自分らしく生きていける  
まちになってほしい。

22

函館がどんなまちになってほしいと思いますか。

同性カップルでも子どもを  
育てている人はたくさんいる。

23

多様な家族のあり方に寛容  
であることで、子どもたち  
も幸せになれる。

函館がどんなまちになってほしいと思いますか。

この制度で函館が、多種  
多様なカップルや家族が  
認められるまちになれば  
素敵だなと思う。

24

函館がどんなまちになってほしいと思いますか。

よい制度があれば、  
外からも人が集まる。

25

函館がより魅力的になる。